

# 事業のタネシート

活動地域・団体名： 玉名市天水町

## 事業名称 1：住みやすい地域をつくりだす事業

### あらすじ

天水地区は、中心地や公共交通結節点（鉄道等）からも遠く、高校以上からの教育環境を不安視し、若い家庭の定住傾向が低い。そのため、多様な教育機会を担保できるよう、エリア内での多様な体験や学び、交流を促進。さらに移動を支援するために、通学支援、交流支援を行う。

### ストーリー

天水地区の特徴として、若い世帯が少ないところである。その課題として、人口減少に伴う教育環境の不安視が挙げられる。現在、塾等の習い事がなくなったり、スポーツも人数がいらないために、団体競技が成り立たなくなっている。一方で、人口減少による地域課題や地域産業である果樹栽培などをフィールドワークとして希望する大学も多く、こうした都市と農村の関係人口づくりに可能性がある。こうした中、地域内での教育活動のコンテンツ化を目指し、地域を生かした多様な体験ができる地域づくりを目指す。例えば、果樹収穫体験や農道整備、空き家の利活用や、子どもたちへの教育活動、子ども食堂などである。さらにその体験を繋ぐために、住民主体の地域交通を配置し、持続可能で幸せな地域づくりを展開する。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	次世代の子どもたちがしっかり未来を見据え学び成長する環境を整え、ゆくゆくは地域に戻って地域の活力を支える人材となる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動の停滞（教育活動のお客様化）</li> <li>・地域でやりたいことが分からない。</li> <li>・教育活動は無償という意識が強い。しかしながら、現地でしか得られない体験、学びなどに価値を創造し、有償化する必要がある。</li> <li>・旅館業法の許可を得る団体を創る</li> </ul>
②課題	交通結節点（鉄道）から遠く、公共交通が不安。また、塾や習い事、スポーツ団体が少ないなど、子どもの多様な学びが阻害されている。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	人口減少下のなかで天水町内での教育環境の充実	
④地域資源	地域コミュニティ・アソシエーションの活性化（子どもたちがやりたいこと、地域住民がやりたいことを自らの力で実現していく、自律的な地域運営）	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの多様な体験などを地域の大人が支える「こども体験塾」</li> <li>・都市部大学生等を受け入れる「フィールドワーク受入事業」</li> <li>・通学や交流者の移動を支援する「コミュニティバス事業」</li> <li>・空き家を改修する「農泊・お試しくらし事業」</li> </ul>	
⑥担い手（Who）	地域おこし協力隊、住民、集落支援員（新規採用）	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	ヒト：地域内の若者（小中学生、高校生、域外の大学生） モノ：様々な教育コンテンツ カネ：宿泊や教育費用 コト：体験や学び交流	▼必要とされるコーディネート内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市と農村の仲介</li> <li>・地域コンテンツづくり</li> <li>・情報発信</li> <li>・移動支援</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	子育て環境を確保・充実させることによって、安心して子育てが出来る地域、住んでいるだけで幸せになれる地域を目指す。そうすることで、一度離れても、「子育てをするなら天水」として将来的に帰って来なくなる地域となり、持続可能な地域づくりを行う。	

# 事業のタネシート

活動地域・団体名： 玉名市天水町

## 事業名称 2：地域で稼げる仕組みづくり事業（もう一度ミカンで稼ごう事業）

### あらすじ

天水の景観の大きな特徴である石積みの果樹園。山肌にまんべんなく古くから果樹栽培がおこなわれている地域である。一方で、果樹のブランド力が弱く、果樹栽培の担い手が減少し続けている。こうした中、「みかんの里てんすい」の再興を行うことで、次世代の担い手の育成に繋げていく。

### ストーリー

天水地区の基幹産業は果樹や施設園芸による農業である。特に古くから行われている果樹栽培によって形成された石積みの段々畑はこの地特有の景観となっている。しかし農産物の価格低迷により、担い手の減少が見られ、そのことが本地区の人口減少の要因の一つとなっている。耕作者が不在になった果樹園は荒れ、イノシシなどの鳥獣害の被害が生じている。農繁期には収穫作業に追われ、生産者は自らの作物の価値向上ができない現状である。

こうした状況を改善するために、様々な業種があつまり、地域の農産物の魅力化をはかることで、地域産業の復興を果たし、若者が帰って来られる町にしていくことが求められる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
① ありたい未来	・地域産業（特に農業）の魅力化による担い手確保	・高付加価値化を図るための認証制度がない。（美味しいの基準の見える化） ・地域商社機能の不在
② 課題	天水みかんの価格低迷により担い手不足。ミカン園の荒廃による山林管理不全。鳥獣害被害。稼げる農業への転換。省力化。	
③ なぜこの事業をやるのか（Why）	みかんの収穫期、地域住民の人が収穫作業に追われ、自分たちのみかんの販売のブランディング（高付加価値化）が出来ない。高付加価値化のための別部隊を創ることで、収穫期に適切なブランディング活動ができる。	
④ 地域資源	果樹栽培（ミカン園）、草枕温泉てんすい、キャンプ場、農産物直売所郷〇市、空き家 東京都文京区との連携協定	
⑤ 商品・サービスの具体的な内容（What）	・地元農産物の価値を上げる「地域商社」の立ち上げ。 ・鳥獣害対策会社（ジビエ販売）の立ち上げ。 ・首都圏で期間限定みかん販売店を実施（首都圏での天水みかんの知名度向上） →天水ミカンブランド認証（基準） ・ふるさと小包便、ふるさと納税返礼品 ・ミカンに関する関連商品の開発（菓子、飲み物、みかんの木チップなど） ・農産物直売所「郷〇市」閑散期支援事業 ・特定地域づくり事業組合（人材派遣事業）	
⑥ 担い手（Who）	・各施設従業員、農業従事者、JAたまな、郵便局員	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦ 事業で生じる循環	・地域資源である果樹の高付加価値化を図り、次世代の担い手を作り出す。	郵便局員 農業協同組合、菓子製造会社、食肉加工場
⑧ 事業で生じる成果	・みかんの高付加価値化。 ・みかんの商品の通年化。 ・一円でも高く買ってもらえる取り組みの実施	

# 事業のタネシート

活動地域・団体名： 玉名市天水町

## 事業名称 3：天水地域自治協議会（地域運営協議会）事業

### あらすじ

近年、農家のつながりや、地域のつながりが希薄化している。さらにコロナ禍において、地域行事の縮小・廃止が促進され、つながりがさらに弱まった。一方で、地域の課題は増大する一方であり、地域住民が協力してその解消を目指すプラットフォームが必要とされている。

### ストーリー

地域運営組織とは、住民が安心して暮らし続けて行けるように、自らが暮らしを支えるために様々な活動を行う組織を言います。しかしながら、これまでの市民活動組織は、そのベースが無償ボランティアによって維持されていたり、行政の各機関との連携等によって設立されていたり、様々な弊害や担い手不足、負担感となっていた。

そのような中で、天水地区の地域運営組織は、地域課題のノード（結節点）となり、各プロジェクトが有機的に繋がることによって、地域の課題などを解決していくこととする。

事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
① ありたい未来	担い手が少ないなか、効果的に地域活動を行っていくために、様々な団体が集まり、地域の課題を解決していく事業を企画運営していく。	・財源不足 ・これまでの地域づくりの考え方とかなり異なるため、旧来の考え方する方からの反発
② 課題	これまで地域活動＝無償ボランティアであったが、地域課題の解決を経済活動によって支えていくことで持続可能な地域づくりを行っていく。	
③ なぜこの事業をやるのか（Why）	地域の将来への不安は、一人では解決できず、多くの協力・協働によって解決していく必要があるため	
④ 地域資源	地域公民館組織、各種団体やミカンといった地域特産品	
⑤ 商品・サービスの具体的な内容（What）	話合いの場 事務局機能	
⑥ 担い手（Who）	地域コーディネーター	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦ 事業で生じる循環	経済活動を行っていくと、どうしても個別化していく。しかしながら協働していくと、それまででは出来ないことが出来るようになる場合がある、このようなプラットフォームとする。	財源の確保のため、ふるさと納税を実施する。
⑧ 事業で生じる成果	人々の繋がりが持続的に行われ、それまで様々な要因であきらめざる得なかった地域活動などの事業等が新たな形で変化することが期待される。	